

る自動配送ロボットの導入は、持続可能な社会に向けた画期的なソリューションになりうるもので、三菱倉庫グループのサステナビリティ目標とも一致することから、出資を実行したものの。

ユーティリティ目録とも一致することから、出資を実行したものの。

EVトラックの導入拡大を検討していくとしている。

三菱倉庫

中国法人が小型EVトラックを初導入

三菱倉庫（本社・東京都中央区、斉藤秀親社長）の中国現地法人、上海菱華倉儲服務有限公司（上海菱華）はこのほど、CO₂排出量ネットゼロに向けた取り組みのひとつとしてEVトラックを初めて導入した。

三菱倉庫グループでは、2020年度CO₂排出量ネットゼロ

の実現に向けて、社用車のEV化や輸配送業務へのリニューアブルディーゼル・EVトラック導入などの取り組みを積極的に推進。その取り組みの一環として今回、上海菱華でEV小型トラックを導入した。主に上海近郊の小口配送に活用していく。上海菱華では引き続き、



中国法人が導入した小型EVトラック

日成 AI活用した輸出CFS業務支援システム導入

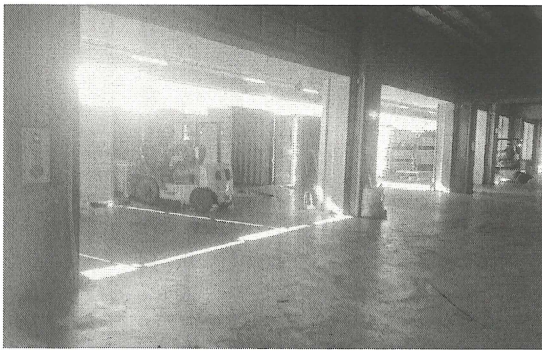
人手不足を解消、海貨業界のDX化を支援

日成（本社・東京都港区、廣瀬史雄社長）はこのほど、同社が運営するCFS（コンテナ・フレート・ステーション）で、AI技術を活用した輸出CFS業務支援システム「AI・VAN NING」を導入した。検査データで荷物の形状などを認識し、独自開発されたAIアルゴリズムに基づきコンテナ積み込みレイアウトを作成。入庫データの処理、バンニングプランの作成も自動化する。手作業、手入力減らし、人手不足の解消と業務の効率化によりCFSのオペレーションを向上させ、トラックの待機時間削減など「2024年問題」にも対応する。今後、同システムのブラッシュ

アップを図りながら同業他社へのシステム外販を進め、海貨業界のDX化を支援していく考え。荷姿や重量などを考慮し積み込みを最適化

CFSとは、コンテナ1本に満たない小口貨物についてコンテナへのバンニング、デバンニングを行う施設。輸出の場合は、輸出者から貨物を引き受け、それぞれの仕向け地別に貨物をコンテナに積み付けし、輸出通関後、船会社からの指示に基づき船積手配を行う。輸出者や貨物の重量、サイズ、形状が都度異なり、貨物の搬入予定もCFS側でコントロールすることが難

しく、作業プロセスの効率化・円滑化が課題となっている。日成では東京（大井ふ頭）、横浜（本牧ふ頭）の2カ所で船会社の委託によりCFS業務を展開しており、将来的な人材不足を見据え、輸出CFS業務のDX化を推進している。今回、「AI・VAN NING」の開発により、証明機関が発行した検査データから、独自開発のA



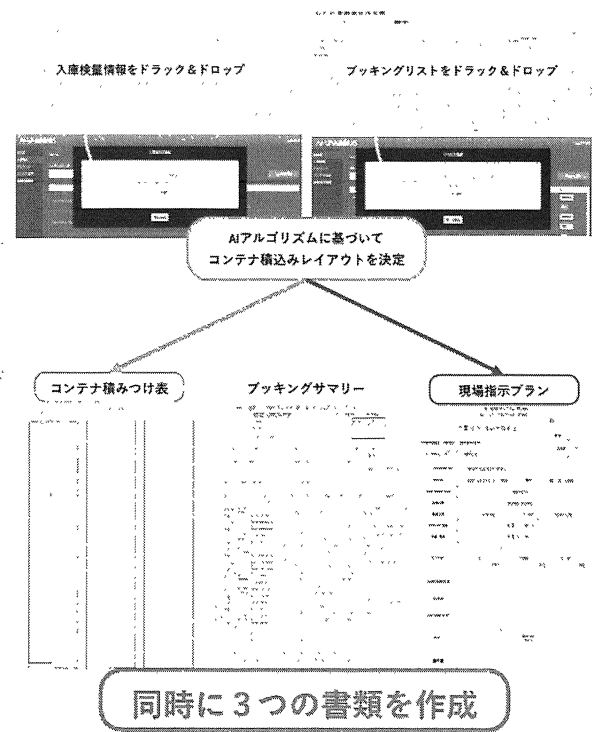
CFSのオペレーションを向上

リアルアルゴリズムに基づき荷姿や重量などを考慮した最適な積み込み方法や仕切り板のレイアウトを決定できるようにした。

従来は手作業で行われていた入庫報告書のデータ処理も自動化し、入力ミスなどの発生を回避。入庫データを用いて自動でバンニングプランを作成し、ACL(船積確認事項登録)・アタッチシートへの転用も可能にした。一連の業務を同時並行で行い、従来発生していた手書きや再入力の手作業をなくすことで、作業者の負担軽減と作業の精度向上を実現。人材不足の解消やより高度なタスクへの人材シフトを目指す。

前工程・後工程におけるシステム連携も構想

同社のCFS業務で8月から運用を開始し、従来比で50〜60%の時間削減につながっている。ペーパーレス化により、緊



「AI-VANNING」の活用イメージ

急時にはCFS業務の一部でリモート対応も行えるようになる見込み。「AI・VANNING」は今後外販を計画しており、ニーズに応じて3つの利用プランを用意する。同システムはコンテナだけでなく、トラックの混載プラン作成にも対応し、国内輸送向けの応用も視野に入れている。

今回のシステムでカバーした業務の前工程・後工程におけるシステム連携も構想している。検査をはじめ各工程でのDXと連動させることで効率化の効果を高めることができるとし、各方面との協業を模索。「物流現場のIT化を進めない限り、人を集めることは難しくなる。業界としてDXに取り組み、少ない人数でも同じ量の仕事をこなせるようにし、収益力を高めていく必要がある」と廣瀬晋也取締役営業本部長は話している。

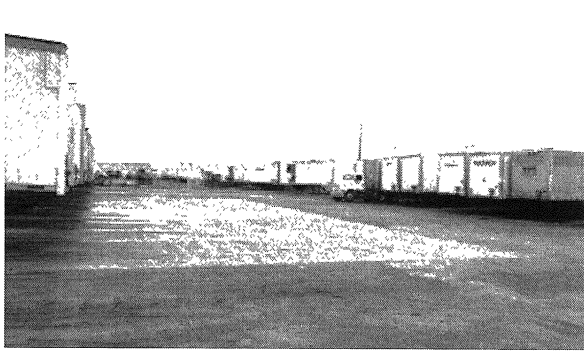
伊藤忠ロジ 米法人が米墨間 輸送ブローカーに出資

伊藤忠ロジステイクス(本社・東京都港区、岡広史社長)は1日、米国人ITOUCHU LOGISTICS (USA) CORP.が、米墨輸送ブローカーであるBCS LOGISTICS LLC(BCS)に出資したと発表した。

BCS社は、テキサス州ラレーを拠点に米墨間輸送を手掛けている企業で、メキシコにおける輸入通関時に「プレビオ(事

前検査)回避」というサービスを伊藤忠ロジステイクスとともに提供している、BUFFETEグループの1社。通関・輸送のライセンスを所持し、国境付近には倉庫およびトレーラ待機場も完備している。

今回のBCS社への出資により、同社が有する国境通関・輸送・倉庫の機能を活かし、複雑な米墨間輸送における手続きをひ



BCS社のトレーラ待機場

とつの窓口でスムーズにサービスを提供することが可能になる。